

「千葉医療圏及び両市立病院の現状と課題」のポイント

1 全体像

- ・各医療機関が機能分担し、連携することで、適切な医療提供体制を構築することが求められている。
- ・総人口は減少も患者数は増加。傷病別では、循環器系及び呼吸器系疾患が特に増加。
- ・規模の大きい急性期の基幹施設が中央区に集中。
- ・病床機能では回復期が不足見込みも、市内では回復期病床は整備されつつある。今後も動向を注視。
- ・医師数は、県全体では全国平均を下回るものの、市内では平均を上回る。医師の確保には、今後も制約が見込まれる。
- ・入院患者の市外流出率は高くなく、主要な疾患をみても高いものはない。全体として現在の医療需要に対応できている。
- ・呼吸器系や循環器系、消化器系など需要の多い疾患のうち手術の必要がないものは、多くの病院が対応している。
- ・手術が必要な疾患のうち、神経系や循環器系、呼吸器系は、特定の病院が手術を実施しているが、消化器系は、両市立病院も含め多くの病院で手術を実施している。
- ・青葉病院は、血液系、外傷系、腎・尿路系、筋骨格系、海浜病院は、皮膚系（小児の食物アレルギー）、小児系、耳鼻科系、新生児系の疾患において、重要な役割を担っている。
- ・主要な病院の多くで実施している神経系疾患の手術は、両市立病院ではほぼ行っていない状況。

2 救急医療

- ・医療圏全体の救急搬送件数は増加傾向で、特に中等症及び高齢者の件数が増加の見込み。
- ・日中以外の時間帯で搬送に時間がかかっており、医療機関交渉回数も県平均を上回っている。
- ・青葉病院は年間4千件を超える救急搬送を受け入れており、特に夜間の受入れシェアが高い。
- ・海浜病院は、2016年から小児ER型救急を実施し、夜間応急診療も含め年間2千件を超える小児の救急搬送を受け入れている。
- ・また、両市立病院は、「千葉県傷病者の搬送及び受入れの実施に関する基準」の受入確保基準対象医療機関として登録しており、搬送困難事例の解消に取り組んでいる。
- ・千葉医療圏では、早急な救急医療体制の強化が必要で、ER型救急の検討も含め「市立病院」としての役割が求められる。
- ・なお、市立病院では、循環器系や神経系疾患の緊急対応について、体制が十分でない。

3 その他の医療

- ・周産期、小児、精神、感染症、在宅医療など両市立病院が担っている医療機能については、今後も提供すべきかどうか検討が必要。

【次回の主な論点】 今後、増加が見込まれる疾患や、過不足が見込まれる病床機能など将来的な医療需要を踏まえた市立病院の医療内容について

- 市立病院が主として担うべきもの、他医療機関との役割分担・連携するもの
- 市立病院の救急医療体制（主に夜間の受入れ体制、受入れ疾患）